

コロナウイルス対策：大会開催に際して注意する点

第 1 版 2020年5月27日現在

注：本文章は、2020年5月27日現在の情報に基づき記載しています。内容は最新の情報に基づき適宜更新されることにご注意ください。

目次

【はじめに：準備における考え方の要点】	… 2
【大会前】	
〔 1 〕 組織対応	… 2
〔 2 〕 参加選手への対応	… 3
〔 3 〕 観戦者への対応	… 4
〔 4 〕 大会スタッフ・ボランティアへの対応	… 5
〔 5 〕 資機材対応	… 7
【大会期間中】	
〔 6 〕 選手・スタッフ受付での対応	… 7
〔 7 〕 参加者への対応	… 8
〔 8 〕 競技説明会	… 1 0
〔 9 〕 セレモニーの中止・縮小	… 1 1
〔 1 0 〕 競技運営・会場作りへの配慮	… 1 1
〔 1 1 〕 衛生用品の準備	… 1 5
〔 1 2 〕 メディカル体制の準備	… 1 5
〔 1 3 〕 その他の留意事項	… 1 7
参考 1 ～ 1 0	… 1 7

【はじめに：準備における考え方の要点】

トライアスロンは屋外で行う個人競技のため、新型コロナウイルス感染のリスクは低いスポーツです。しかし大会会場における局所的に人が集まる場面と、大会会場までの移動場面は感染のリスクが高くなります。このウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染の2つですが、感染していても無症状の期間があり、自覚無く他人に感染させてしまうことと、ヒトの身体を離れても条件によって数日は感染性を有していることがあり、誰もが知らない間にウイルスを運んでしまう危険性があります。誰かがウイルスを大会会場に持ち込み、大会がクラスターとなることは絶対に避けなければなりません。感染拡大を防ぎつつ大会を開催するためには、ウイルスの感染経路を理解した上で、大会に集う全ての人に協力を求めることと、丁寧に各局面の準備を行うことが大切です。そして何よりも、大会には開催地の住民の理解と協力が必要不可欠です。地域住民と参加者、大会関係者、全ての人が安心して大会を行うことができるよう、以下の点に注意して大会準備を進めてください。

【大会前】

〔1〕組織対応

1－1．対策チームの設置。

- ・緊急時の決定を下すための対策本部を予め設置（構成員：大会事務局、競技団体、メディカルなど）。
- ・最終決定者の確認。

1－2．感染症対応を含めた危機管理マニュアルの準備。

1－3．感染症対応を含めたメディカル体制、マニュアルの準備。

1－4．財務関連のシミュレーション。

1－5. スタッフ数確保：各スタッフの確保状況の確認：協力会社（設営、警備、誘導、水上安全など）、審判員、メディカル、ボランティア（一般、関係企業、学生など）。

〔2〕 参加選手への対応

事前に以下の点（2－1～2－10）について参加選手へ周知、案内を行う。なお案内に際しては、「感染拡大のために参加者に守っていただきたい事項を以下に記します。

守っていただけない場合には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、大会への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあり得る」ということを周知する。

2－1. 普段から「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気をつけ健康維持に努めていただく。大会会場でも同様の行動を依頼する。

2－2. 移動手段(行き帰り)に関する注意喚起（公共交通機関をできるだけ避ける、自家用車の推奨など）の必要性については、大会実行委員会で要検討。

2－3. 健康管理奨励。具体的には健康チェックシート（体温、咳、痰、鼻汁、咽頭痛、息苦しさ、倦怠感、食欲低下、味覚異常・嗅覚異常の有無、近親者に左記の症状がないかなど）を作成し事前チェックの推奨。大会会場に入る前ならびに大会当日朝は必ず体温チェックを行う。

2－4. 以下の事項に該当する場合は、来場しないこと。

ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・息苦しさ・倦怠感・食欲低下・味覚異常・嗅覚異常などの症状がある場合）。

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

※ 1. 基礎疾患（特に肺疾患、心疾患、高血圧、糖尿病など）のある方、喫煙者の方は、自らが感染した場合重症化する割合が高いため、大会申込をお勧めしません。

2－5. マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等の、競技を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用することを推奨）。

2－6. 対人距離（できるだけ2 m以上）を確保すること。

（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。）

2－7. イベント中に会話、応援をするときは、対人距離が確保できなければマスクを着用のこと。

2－8. 会場内では感染防止のために主催者が決めたルールに従うこと。

2－9. 行動記録：大会前後14日間の出向いた場所、同行者について、特に人混みに入る場合だけでも可能な範囲で記録しておくことを推奨。

2－10. 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

2－11. 事前に選手配布物を配送。選手受付の簡略化を計る。

2－12. 大会中止、延期になった場合の対応の検討（周知方法：WEB案内など、返金有無、延期の際のエントリー振替、中止の際の参加賞などの配送有無など）。

※ 2. なお、大会HPやSNSなどで情報発信の頻度アップについてもご検討ください。

頻度向上により参加選手の不安、不満解消に繋がります。

[3] 観戦者への対応

事前に以下の注意事項（3－1～3－7）について広報し周知する。

3－1. 「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気をつけていただく。

3－2. 移動手段(行き帰り)に関する注意喚起（公共交通機関をできるだけ避ける、

自家用車の推奨など)の必要性については、大会実行委員会で要検討。

3-3. 以下の事項に該当する場合は、来場しないこと。

ア 体調がよくない場合(例:発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・息苦しさ・倦怠感・食欲低下・味覚異常・嗅覚異常などの症状がある場合)。

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

エ 基礎疾患(特に肺疾患、心疾患、高血圧、糖尿病など)のある方、喫煙者の方。

3-4. 応援時はハイタッチ・濃厚接触の自粛、マスクの着用(特に声援時)、隣の人と2m以上距離を保った観戦をお願いします。観戦自体の自粛要請については大会実行委員会で要検討。次項に感染リスクの高い応援例を記す。

3-5. 以下の応援スタイルは感染リスクが高いため避ける。

・ハイタッチ、集団での動きを伴う応援、指笛、ホイッスルなどの鳴り物など。声援時はマスクが必要。

3-6. 会場内では感染防止のために主催者が決めたルールに従うこと。

3-7. 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

[4] 大会スタッフ・ボランティアへの対応

事前に以下の注意事項(4-1~4-9)について周知する。

4-1. 普段から「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気をつけ健康維持に努めていただく。大会会場でも同様の行動を依頼する。

4-2. 移動手段(行き帰り)に関する注意喚起(公共交通機関をできるだけ避け

る、自家用車の推奨など）の必要性については、大会実行委員会で要検討。

4－3．健康管理奨励。具体的には健康チェックシート（体温、咳、痰、鼻汁、咽頭痛、息苦しさ、倦怠感、食欲低下、味覚異常・嗅覚異常の有無、近親者に左記の症状がないかなど）を作成し事前チェックの推奨。大会会場に入る前ならびに大会当日朝は必ず体温チェックを行う。

4－4．以下の事項に該当する場合は、来場しないこと。

ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・息苦しさ・倦怠感・食欲低下・味覚異常・嗅覚異常などの症状がある場合）。

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

※3．基礎疾患（特に肺疾患、心疾患、高血圧、糖尿病など）のある方、喫煙者の方についてはスタッフ数が確保できる場合は参加を遠慮していただく。確保できない場合は、なるべく人と接する機会が少ない配置を検討する。

4－5．マスクを着用すること。

4－6．対人距離（できるだけ2 m以上）を確保すること。

（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。）

4－7．会場内では感染防止のために主催者が決めたルールに従うこと。

4－8．行動記録：大会前後14日間の出向いた場所、同行者について、特に人混みに入る場合だけでも可能な範囲で記録しておく。

4－9．大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

4－10．配置の検討：受付、案内窓口、フィニッシュ後の参加賞受渡しなど、不特定多数の選手と接するポジションは選手以上にリスクが伴う場合がある。また、そう

いったポジションにおいては感染源にもなりかねません。衛生用品の充実や対応の徹底（マスク、ゴム手袋なしで選手の対応を行わないなど）、事前の体調管理など安全管理をご検討いただく。

4－1 1．必要最低限のボランティア数：ボランティアの数を見直し、絶対的に必要な数に抑えるよう検討いただく。

[5] 資機材対応

5－1．衛生用品（マスク、消毒用エタノール(濃度70%)、石鹸、ペーパータオル、ゴム手袋、体温計[非接触型が望ましい]など）の確保可能な数量の見積もり。大規模大会ではサーモメーター（レンタルなどで対応）の検討。

5－2．衛生用品の各所への配置計画（受付、説明会会場、トランジション、トイレなど）、可能ならば手洗い場所の増設。

【大会期間中】

全般：大会会場におけるマスク着用（選手は受付やトランジションへの準備・片付けなど競技前後、大会スタッフおよび観戦者は期間内全て）、頻回の手洗いおよび手指消毒の推奨。（必要に応じて）選手、コーチ、スタッフに対して血中酸素飽和度ならびに体温測定を行い、酸素飽和度が95%以下、体温が38℃以上の場合は大会医療代表に報告すること。

[6] 選手・スタッフ受付での対応

主催者は、当日の受付時に参加者が密になることへの防止や、安全に開催するため、以下に配慮して受付事務を行うことが必要です。

6－1．受付窓口には、手指消毒剤を設置すること。

6－2．発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること（状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限することも考えられる）。

6－3．人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること。

6－4．レースナンバーによって時間帯を分ける、もしくは時間を延長するなどして、特定の時間帯に集中しないよう考慮（並ぶ際は一定の距離が保てるようテープなどで印をつけるなど）。

6－5．受付会場の換気の徹底。換気の良い場所（屋外など）で実施することも検討。

6－6．受付を行うスタッフには、マスクを着用させること。

6－7．インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を極力避けるようにすること。

6－8．当日受付のほか、前日受付を行い、混雑を極力避けること。

6－9．大会会場で発熱が分かった場合、必ず実行委員会に報告するよう連絡先を受付に周知する。

[7] 参加者への対応

7－1．体調の確認

主催者は、大会前日もしくは当日に、参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求める必要があります。

① 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取扱いに十分注意する。

② 大会当日の体温

③ 大会前2週間における以下の事項の有無

ア 平熱を超える発熱

イ 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状

ウ だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）

エ 嗅覚や味覚の異常

オ 体が重く感じる、疲れやすい等

カ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

キ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

ク 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている

国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

7-2. マスク等の準備

主催者は、参加者がマスクを準備しているか確認することが必要です。なお、運動・スポーツ中のマスクの着用は参加者等の判断によるもの（※4）とする。しかし、参加の受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間、特に会話する時には、マスクの着用を求めることが考えられます。

※4. マスク（特に外気を取り込みにくいN95などのマスク）を着用して運動やスポーツを行った場合、十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があることに留意するとともに、適宜周知することに配慮すること。

7-3. 大会参加前後の留意事項

大会に参加する個人や団体は、大会の前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること、会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮することが求められます。

7-4. 参加者が競技を行う際の留意事項

主催者は、参加者に対し、以下の留意点を周知・徹底することが求められます。

① 十分な距離の確保

競技中だけでなく、競技をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人

となるべく距離（※５）を空けること。（介助者や誘導者の必要な場合を除く。）

強度が高ければ呼気が激しくなるため、より一層距離を空ける必要があること。

また、水泳時などでマスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

※５．感染予防の観点からは、少なくとも２mの距離を空けることが適当である。

② 競技中の位置取り

前の人の呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

③ その他

ア 競技中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。

イ タオルの共用はしないこと。

ウ 道具の共有は禁止し、特に水のボトルやコップは共有しないこと。

エ 競技後の飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしないこと。

オ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外（例えば走路上）に捨てないこと。

〔８〕 競技説明会

８－１．事前資料配布、WEB方式の導入など大会期間中に集合しての実施を見直す。

８－２．換気の良い場所（屋外など）、十分なスペースが確保された会場で人数を制限し実施することも検討。

[9] セレモニーの中止・縮小

9－1．開会式、表彰式、閉会式、パーティー、EXPOなどのセレモニーの中止、縮小。
表彰式の縮小については、例えば全員一斉に実施するのではなく、順位が確定したら順次個別に表彰をするなど。また、競技終了後、速やかな帰宅を推奨。

9－2．上位入賞者と結果発表の方法の検討：後日ホームページ上で発表、各選手へのダイレクトメールなど。

9－3．入賞者に対し副賞がある場合は、後日郵送も検討。

[1 0] 競技運営・会場作りへの配慮

1 0－1．トランジション

それぞれの選手に最低2mのスペースとバイク・ラックの2列の間を5m以上の距離に離して提供することを推奨する。

1 0－2．スタートエリア

① 入場人数の制限。

② エリア外で待機の際も、十分なスペースを確保し各選手間に一定の距離（2 mの対人距離推奨）を設ける。

1 0－3．スイム競技

① エイジ競技では、ローリングスタートの検討。

② ウェーブスタートの場合は各ウェーブの人数の検討。

③ スタート順を事前に割り振ることも検討。

1 0－4．バイク競技

エイジ競技ではドラフティング禁止レースのみ適用。

1 0－5．ラン競技

- ① 可能な限り対面コースは避けること。
- ② 周回コースの場合は、なるべく少ない周回数にすることを推奨。

10-6. フィニッシュエリア

- ① フィニッシュテープは、パラトライアスロンならびにエイジ大会では使用しない方がよい（接触の機会を減らすため）。
- ② フィニッシュ後の選手は、ウイルスに対する抵抗力が落ちており、感染リスクが高まっていることを認識しておく。
- ③ 混合リレーのフィニッシュでは、チームの選手が集まってきてはいけない。
- ④ フィニッシュした後の動線の検討（参加者が滞留しない工夫、フィニッシュ後配布物の配布場所の再考）。
- ⑤ フィニッシュ後に飲食を提供する際は、個包装された物を用意する。滞留を避けるため飲食スペースには十分なスペースを確保する（スペースがない場合は提供を再検討）。

10-7. エイドステーション

主催者は、飲食物を参加者に提供する際は、以下に配慮して行うことが求められる。

- ① セルフ方式（ボランティアから手渡しを極力避ける）を検討すること。
- ② スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトルや使い捨ての紙コップで提供すること。（ただし、ドーピング検査の対象となる者が参加するイベントでは、未開封の飲料を提供しなければならないこと。）
- ③ 給水コップなどの間隔を十分取ること。
- ④ エイドエリアのスペースを十分取ること。
- ⑤ 果物等の食品については、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行うこと。
- ⑥ 飲食物を取り扱うスタッフにはマスク、手袋を着用させること。

- ⑦ 競技前後においては、参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること。

10-8. 更衣室、アスリートラウンジ

更衣室、アスリートラウンジは感染リスクが比較的高いと考えられることに留意することが必要です。主催者は、更衣室やアスリートラウンジ、一時的な休息をするための休憩スペース、参加者等が参加前の確認を受ける待機スペース（招集場所）について、以下に配慮して準備することが求められます。

- ① 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること。（障がい者の介助を行う場合を除く。）
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること。
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については、こまめに消毒すること。
- ④ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮すること。
- ⑤ 頻回に清掃する、タオル類の共用を避けるなど。

10-9. 手洗い場所

主催者は、参加者が大会期間中に手洗いをこまめに行えるよう、以下に配慮して全ての主要な認定ゾーン（アスリートエリア、VIP、メディア、作業スペース）に手洗い場を確保することが必要です。

- ① 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。
- ② 「手洗いは20秒以上」等の掲示をする。
- ③ スタート、エイド、トランジション、フィニッシュにできるだけ手洗い場を確保する。

- ④ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意することも考えられる。（参加者にマイタオルの持参を求めてもよい。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにする。）
- ⑤ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する。
- ⑥ 可能であれば、部屋のドアは開け放つこと。それができないならば、いろいろな人がドアノブを触ることがないようにボランティアをおいて管理すべきである。

10-10. 洗面所（トイレ）

洗面所（トイレ）についても感染リスクが比較的高いと考えられることに留意することが必要です。主催者は、洗面所（トイレ）について、以下に配慮して管理することが求められます。

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに（1日数回）消毒すること。
- ② トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること。
- ③ 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること。
- ④ 「手洗いは 20 秒以上」等の掲示をすること。
- ⑤ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意することも考えられる。（参加者にマイタオルの持参を求めてもよい。布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。）

10-11. 観客席

対人距離の確保は、観客がいる全てのエリアで尊重されるべきである。この点を考慮して、主催者は、複数の場所から見ることのできる会場レイアウトを検討する。また、全ての会場動線は、一方通行で計画する。観客へは、通路の狭い場所では止まらないようにアドバイスする。

観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとることが求められます。もしグラウンドスタンドが設置される場合は、席の間は2 mの距離を空けるように、計画する。また、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知することが必要です。

10-12. イベント会場

イベントを室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う必要があります。具体的には、換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うことが考えられます。

10-13. ゴミの廃棄

衛生用品（例えばティッシュ、タオル、衛生用品）を安全に廃棄するための密閉式ゴミ箱を全ての部屋に用意する。鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用することが求められます。また、マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒することが必要です。

[11] 衛生用品の準備

11-1. 各所（トイレ、会場、更衣室、アスリートラウンジ、トランジションエリアなど）へ衛生用品の配置。

11-2. マスク、フェイスシールド、消毒用エタノール(濃度70%)、石鹸、ペーパータオル、ゴム手袋、体温計（非接触型が望ましい）など衛生用品の配置。大規模大会ではサーモメーターレンタルの配置検討。加えて救護班には血中酸素飽和度計など。

[1 2] メディカル体制の準備

1 2 - 1. 地域の保健所ならびに受入医療機関へ体制確認。

1 2 - 2. 感染が疑わしいケースへの対応策の準備。

<対応フロー>

- ① 大会事務局新型コロナウイルス感染症対応連絡先の明示。
- ② 感染症対応担当者（医療関係者が望ましい）の設定。
- ③ 原則として直接対面しての対応は行わず、電話で対応する。
- ④ 自宅またはホテルの居室にて体温ならびに症状の確認。
- ⑤ 直接対応が必要な場合は専用隔離スペースを用いる(後述)。この際には、できれば医療関係者が、標準予防策の上で、体温測定に加えて血中酸素飽和度の測定も行うことが望ましい。
- ⑥ 地域の保健所または帰国者・接触者相談センターへ連絡し、指示に従う。
- ⑦ 医療機関を受診する場合、患者の移動手段確保：公共交通機関ならびにタクシーは感染拡大のリスクに配慮し、使用を控える必要がある。移動手段についても地域の保健所または帰国者・接触者相談センターの指示に従う。

* 以下は現時点での移動案（内容については、状況に応じて要検討）

（ケース 1）

感染を疑う者が、その者の関係者[同行者、チーム仲間、コーチなど]とそれまで行動を共にしていた場合：

本人ならびに関係者全てがマスク、ゴム手袋を装着した上で、窓を開け換気した状態で関係者の車両で移動する。

（ケース 2）

感染を疑う者が単独で来場していた場合：

マスクならびにゴム手袋を装着した上で、感染者送迎専用車両を大会主催者で準備し、窓を開け換気した状態で送迎する。送迎した場合は使用前後に車内の十分な清掃ならびに消毒を行う。

- ⑧ 感染を疑う者の行動記録を入手し、地域の保健所または帰国者・接触者相談センター（※ 6）に連絡する。

※ 6. 帰国者・接触者相談センター（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19-kikokusyasessyokusya.html

- ⑨ 対策チームで情報を共有し、その後の対応について協議する。情報共有のタイミングは感染を疑う者から相談を受けた時点とし、その後適宜情報共有する。

1 2 - 3. 隔離対策の準備

感染を疑う者が直接大会事務局を訪ねてきた場合に備え、専用の隔離スペースを準備する。夜間などでオープンスペースでの隔離対応が困難な場合には隔離できる部屋を準備する。この理由は、密閉された空間での対応は感染拡大の原因となる可能性があるからである。隔離後の対応は上記 1 2 - 2 に準じる。

[1 3] その他の留意事項

主催者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、大会当日に参加者より提出を求めた書面（上記 7 - 1）について、保存期間（少なくとも 1 月以上）を定めて保存しておくことが必要です。また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくことが必要です。

（参考１）内閣官房『新型コロナウイルス感染症対策』移行期間における都道府県の対応について 2020.5.25

https://corona.go.jp/news/pdf/ikoukikan_taiou_0525.pdf

（参考２）ITU『COVID-19 Guidelines（英和対比）』

<https://www.jtu.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2020/05/3f9bc11cc84daf1d96bc126d3b4b3cac.pdf>

（参考３）JTU『COVID-19 Outbreak – Guidelines for RMDs and MDs（簡易訳）』

<https://www.jtu.or.jp/news/2020/03/18/14104/>

（参考４）日本スポーツ協会 スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて 2020.5.14

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/detail/jsa_00021.html

（参考５）首相官邸『新型コロナウイルスお役立ち情報』

https://www.kantei.go.jp/jp/pages/coronavirus_info.html

（参考６）厚生労働省『新型コロナウイルス感染症について』

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

（参考７）厚生労働省『新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安について』

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000596978.pdf>

（参考８）厚生労働省『国民の皆さまへ（新型コロナウイルス感染症）』

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html#yobou

（参考９）厚生労働省『新しい生活様式』

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

【今件に関する問合せ】 JTUイベントチーム（担当小池） event@jtu.or.jp